

発行所 佐賀市役所
佐賀市神野町331番地の3 〒840
電話代表 ②3151番
発行人 市長公室長

佐賀市の人口		
12月1日現在	前月比	
人口	162,031	+ 99
男	77,164	+ 38
女	84,867	+ 61
世帯	50,045	+ 71

賀正



(ついで)
[未年を祝う市長と子どもたち]

—協力・佐賀大学農学部—

明けましておめでとうございます。市民のみなさまには、旧年中、市政に対して一方ならぬ御協力を賜り、誠にありがとうございました。心から厚くお礼を申し上げます。

私は、これまで「清らかな水と緑の木々に代表される都市像」を究極の目標として、何よりも、市民のみなさまが住みよく暮らしやすく、そして魅力ある都市をつくるために努力を重ねてまいりました。

昨年は、十八番目の佐賀市立小学校である若楠小学校の開校、国立佐賀医科大学の開講など、文教福祉都市としての地固めの年であったと思えます。

また、市民生活の利便と快適さのために欠くことのできない施設として昭和四十七年度から工事を行ってこられた公共下水道の一部が完成し、十一月

年頭のごあいさつ

市民のみなさま、あけましておめでとうございます。

希望にみちた、昭和五十四年の新春を十六万市民のみなさまとともに迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げます。

昨年は、引き続き不況と異常な円高により、内外の情勢は、極度な波乱のうずみであう苦難の連続と、加えて年末の国内政局の変動もあって、あわただしい多難な年で暮らしました。

本年も、前年の尾を引く情勢下にあるとは存じますが、私達は、市政の発展、市民生活の安定のため、みなさまの御支援を仰ぎながら、相協力して光明を探索し、活路を見いだす努力をいたさねばと覚悟を新たにいたしているところであります。

佐賀市も市制を施行して本年は、九



佐賀市長 宮田 虎雄

には使用開始の運びとなり、佐賀市史に画期的な一ページを飾ることができました。

これは、誠に喜ばしいことであり、市民のみなさまはじめ関係各位の温かい御支援、御協力に対し心から感謝申し上げます。

さて、今年、明治二十二年四月一日に市制が施行されてから九十年という記念すべき年であり



佐賀市議会議長 武田 資義

十周年を迎えることとなり、ますます伸展してゆく姿を目のあたりにしますことは、この上もない喜びであります。

昭和四十二年に策定しました総合計画にそった都市像の樹立は、苦難な財政下にあろうとも、市民生活優先の原則にたつて着々と進行している現在、近い将来に大佐賀市としての機能を十分に発揮し得るものと確信いたしております。

また、本年は、私達市政に携わる者の任期満了の年であり、全力を傾け、最後を全うしたい所存でありますので、この上も、御支援御協力の程を切にお願いいたします。

昭和五十四年のれい明とともに九十年の年輪を数え、繁茂する大樹のごとく、躍進する大佐賀市建設に向かって新たな希望と覚悟を抱き、みなさまの御多幸と御健康をお祈りし、新年のごあいさついたします。

ひつじ年生まれの方にきく

ひつじ年のできごと

- 明治16年(1883) 佐賀県、長崎県から分離独立
- 明治28年(1895) 佐賀・武雄間に鉄道開通
- 明治40年(1907) 市立佐賀商業学校を設置(昭和11年に県立移管)
- 大正8年(1919) 佐賀市中央常設市場開設

よき友をつくる

今年のはくの年、ひつじ年です。今年、中学という道を進むことのできるような希望を持っています。



まず、ぼくの一番の抱負は、よき友を作ることです。一人にたよるな、自分の部員ですが、このバスケットというスポーツを通じて、友というものが、どんなに大切なものかを、しみじみと教わられました。友達づくりは、ぼくが中学生になってからの一つの課題だと思っています。「一人にたよるな、自分の部員ですが、このバスケットというスポーツを通じて、友というものが、どんなに大切なものかを、しみじみと教わられました。友達づくりは、ぼくが中学生になってからの一つの課題だと思っています。」

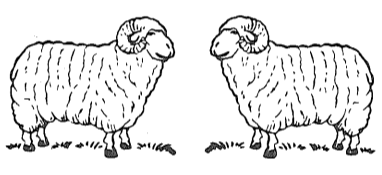
すなおな人間に
本庄小5年 陣内幸子さん
(昭和42年生まれ)

今年のはの年、私も十二歳、小学校最高学年として、心身をひきしめ、何事も最後まで、がんばり通したいと思っています。



心がきずつくようなことを言われると、さかいらい、反こすることがあり、母からも、「もっと素直にしろ」とよく言われます。羊というと、心のやさしい、温かい動物だということに、私は、友達がそばにいて、ふざけてくるさいときは、ついカッとなり、大声でとらちらさすることがあります。また友達から、

“ひつじ年”抱負を語る



昭和54年を思う
呉服元町 鶴 洋さん
(会社役員 昭和18年生まれ)

今日、佐賀を取りまく商業圏は非常に難しい時にきていると思います。思いがけるに十三年前、呉服町で靴販売業に専念したときに比べ、現在は、グイグイ佐賀進出、市役所と駅の移転、駅前西友進出、玉屋増築、寿屋進出、空港問題等、昭和五十四年の佐賀は、急ピッチでかわらうとしております。

佐賀市の人口十六万人、市郡合わせて約三十万人の小さな商圏で、大きく揺れ動こうとしております。郷土佐賀は、県都として地方の中核都市の機能を強め、商店街再開、駅前再開、新幹線九州横断高速道、佐賀空港等、明日の佐賀市における重要案件をかかえて、その決断を迫られています。

今こそ、一市民として、また企業を代表し企業としての社会的責任を自覚し、青年の勇気と情熱をもってあらゆる問題に、積極的に挑戦して行きたいと思っております。

ひつぱり出し、輪の中に包んでくれた講の仲間「そんなことでほだめだよ」と子供のために惜し身なかけずり回ってくださった上司……

あらが、もう四十八？振り返って見れば、本場に短い年月、でも、こまめに来たためには長い長い歳に幸せられたと思えます。人間が生きて行くために、楽しかったこと、苦しかったことなど、走馬燈のように脳裏を駆けめぐります。悲しくつらかったとき、「自分の恩給を子供の教育の「和」を心がけ、一日一日をがんばって行きたい」と「出てこんば」と無理に思います。

人間関係が大切
巨勢町 高田和子さん
(団体職員 昭和6年生まれ)

意味を持つ年だといえます。大型店、西友、寿屋の進出、玉屋増築など、直接的に私達が影響を受ける大きな問題が現実化される年でもあるのです。安定期を迎えた激動の年とも表現しておきましょう。

書き残しておきたい自己の記録
本庄町 広野八郎さん
(無職 明治40年生まれ)

ち、昭和の不況につづく、まわしい戦争、窮乏と敗戦と混乱の、激動の時代を生きた。思えば、一労働者としての私の生活であったが、この時代の歴史の中の微細なひとすじのせん維として織りこまれていくことに間違いのないのであった。

名もなき一庶民が、どうい生き方をしてきたかを書き残すことも、無駄ではないと思ふようになった。浅学非才をかえりみず、たとえ稚拙な文章でも、ひたむきに、遺言のつもりで自己の記録を書き残しておくことに、余生をささげようと思ふのである。

今年のはの年、私のあたり年だ。それだけに、心の中にしずんでいた大きな希望が、ぐんぐんとわいてくる。今年には中学生になるので、抱負の第一は、これまでに以上に勉強をがんばりたいということだ。特に、国算社理英は、もっと熱を入れてがんばりたい。そして、日記も今年は何日少くも

3つを目標に
芙蓉小6年 江口加寿子さん
(昭和42年生まれ)

でも書いていこうと思う。第二は、人に親切をし、めいわくをかけないようにしよう。第三は、物を大切にしよう。お金を使うのも、お金の節約も、必要なものだけを買うようにしたい。今年、この3つを目標に、羊のようにならなう。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんなに、おかげようということだ。家の仕事もお手伝いする。ついでに、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんなに、おかげようということだ。

二度とこない青春の中の私
大府二丁目 須川君江さん
(団体職員 昭和30年生まれ)

一九七九年が始まりました。今、心に思っていることが、つらあります。一つは、私は、社会にどう貢献しようか、というところを、この一年、心に思っています。先聖にひびかれてきた私、まだまだ人生は長い、これから私がひびける役に早くなりたいと思っています。二つ目は、親との会話、小さいころから何でも親に話してききました。今でもそうです。女性には嫁に行くという、より大切で、早々実家に帰るわけにはいきません、自分がいざ親孝行をしようとしても親はもういないなど、よく聞きま

ガンバレ年男！
白山二丁目 小池昭二さん
(会社役員 昭和6年生まれ)

新年おめでとございませう。本格的に低成長安定期を迎えたいと、われわれの年、何回も目の年末を迎えて感慨深いものがあります。特に今年は、私達佐賀の商店界にとって、大きな

生き残るすべをどうするか、商品構成、労務管理、福利問題、消費者の吸収はどうするかなど、私達に任せられた波紋は、数限りなく広がって行くことでしょう。私は、ここの年の男、私を取りまく状況、天の恵と受けとめ、地の利、人の和をもって、堅実にそして着実に一層の飛躍を求めているつもりです。今年のは「未年」。二度とこない青春の中にある私、くいのない人生をマイペースで歩んでいきたいと思います。

賀状にも決意新たな年男
材木二丁目 葛浦正明さん
(教員 昭和6年生まれ)

いつの間にか四十八歳の年を迎える。孔子が「論語」の中で、「五十にして天命を知る」と述べている言葉を思い出す。天命の解釈にはいろいろあろうけれども、私は天から与えられた使命と考えている。私にとって、天命ともいうべき教師の道を歩いて、既に二十数年過去を振り返るときに、冷汗三斗

の思いがある。生徒の「落ちこぼれ」を口にする前に、教師の「落ちこぼれ」の原因を深く考えて初心にかえりがん張りたい。



き世代の
① きたり
② きたり
③ きたり

私はいくつと生活の中での会話、これが最大の親孝行だと思っています。今年のは「未年」。二度とこない青春の中にある私、くいのない人生をマイペースで歩んでいきたいと思います。

ひつじ年のできごと

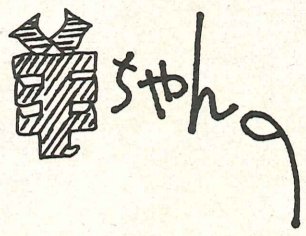
- 昭和6年(1931) 満州事変おこる
- 昭和18年(1943) 第1回学徒出陣
- 昭和30年(1955) 第三次町村合併(蓮池町)
- 昭和42年(1967) 交通安全都市宣言

「おめでとう」はダイヤル通話で

- 1月1日～1月3日の3日間は、60キロメートルをこえる地域へのダイヤル通話は、夜間と同じ割引料金となります。
- 親戚、知人、なつかしい友へ、手近な電話で声の便りをお届けください。
- 100番通話は割引料金になりません。

▷ ダイヤルは、つづけて、おわりまで正確にまわしましょう◁

佐賀電報電話局 お問い合わせ 23-3610(無料)



さが散歩

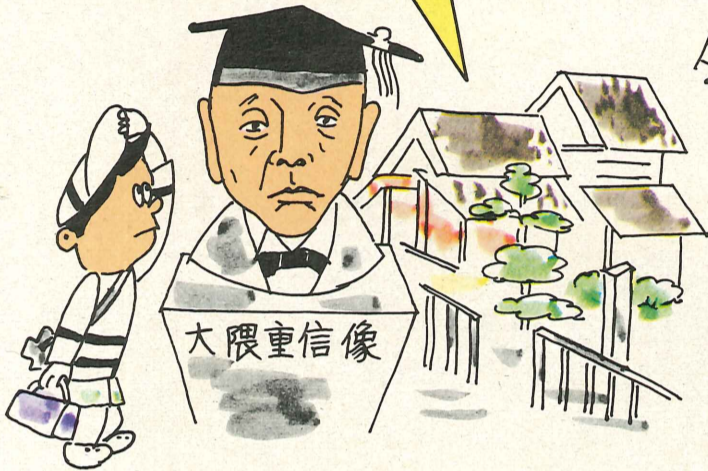
ぶらり

佐賀市内には、人にあまり知られていない名所旧跡があります。未(ひつじ)年生まれのお羊ちゃんに、新年早々、その名所を散歩してもらいました。



大隈重信侯生誕の地

大隈重信侯は、早稲田大学の創立者、明治維新に活躍した大政治家として有名です。偉大な大隈重信は、この家で生まれ、育ちました。隣には、生誕を記念して大隈記念館が建てられています。(水ヶ江二丁目)
—あんな帽子をかぶって、えらくなりたいなあ—

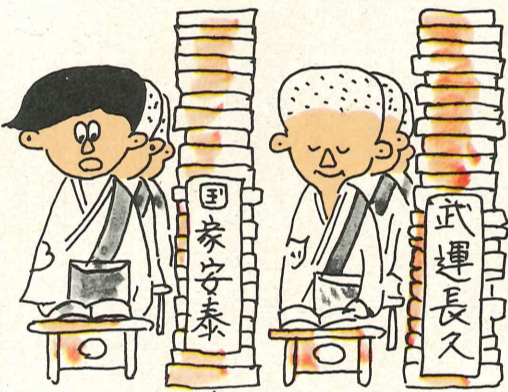


佐賀城跡

鍋島家代々の居城で、別名を栄城、または亀甲城ともいいます。周田4kmにおよぶ平城で、五層の天守閣が威容を誇っていました。
—もっと大きい城もかきたいなあ—

官軍墓地

明治の初め、江藤新平の率いる佐賀軍と官軍が戦い、官軍も多くの方が戦死しました。(中の館、乾亨院)
—今も似たようなことがあってるね—



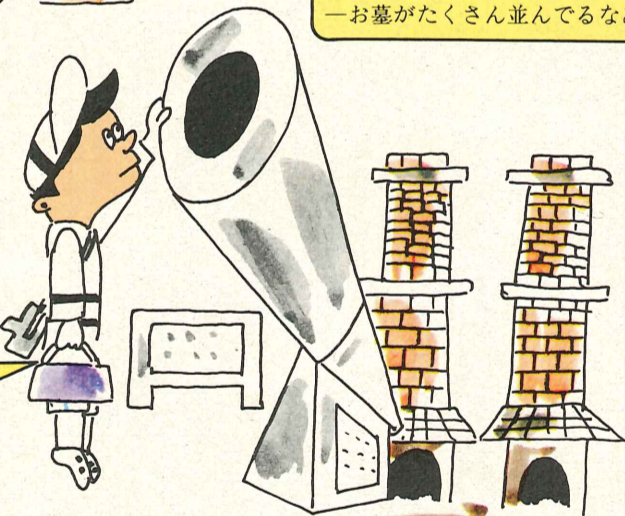
高伝寺

鍋島、龍造寺家の菩提寺で、今から約430年前に建てられたものです。毎年4月には釈迦堂祭りも行われています。(本庄町)
—お墓がたくさん並んでるなあ—



万部塔

龍造寺家兼公は僧3,000人を集めて法華経1万部の読経をさせ、国家安泰、武運長久を祈願させました。(城内二丁目)
—昔の人は、えらいなあ—



カノン砲と反射炉

鍋島直正公は日本で初めての洋式反射炉を設け大砲を製造、長崎防衛の大砲もここで造られました。(日新小学校)
—すごく大きいんだな—

別れの松

旧藩時代、罪人が嘉瀬刑場にひかれていくとき、縁者や知人が、別れを惜しんで、さかすきをくみかわしたところ。(嘉瀬元町)
—別れて悲しいんだな—



絵をかいた人

佐賀警察署防犯課長

久保田 満さん

まんがは小さいときから好きだったそうです。佐賀新聞読者欄のイラスト、警察の広報などで活躍されています。また、久保田さんは「佐賀まんが集団」の一人で、柔らかく温かいタッチで好まれています。

